５．学生の受け入れ

中期目標
【目標１】学生の受け入れ方針を明示し、教育目標や学位授与方針、教育課程の編成・実施方針に基づいた人材育成の成果と比較・検証することで、これを適切に維持する。
【目標２】適切な定員を設定して学生を受け入れるとともに、過去５年間の入学定員に対する入学者数比率の平均並びに、収容定員に対する在籍学生比率の平均を 1.00 とする。

（１）広報入試委員会

中期計画【計画１】（目標１に対応する計画）	達成度評価指標【指標１】
[1-1] 当該学科に入学するにあたり、求める学生像及び修得しておくべき知識等を事前に明示する。 [1-2] それぞれの入試制度に基づいた選抜方法を明示するとともに、選考方法、出題内容、合否判定が適切かどうかを検証し、適正化を図る。 [1-3] それぞれの入試制度並びに成績優秀者奨学金、資格取得者奨学金、課外活動特待奨励金に該当した入学生の学修成果について検証・評価する。	[1-1,1-2 共通] ①入試要項、ホームページでの公開 [1-3] ①各奨学金対象者調査 ②各奨学金対象者調査 ③入学年度別 GPA 分布・推移 ④進路決定状況（業種別等を含む） ⑤資格等取得状況 ⑥入学年度別学位授与率・４年間卒業率 ⑦成績優秀者奨学金該当者等成績一覧

	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
2016年度	[1-1] 高大接続システム改革に伴い、三つの方針の一体的策定と、それらに基づく教学マネジメントを推進。その一つであるアドミッションポリシーの策定、見直しを年度内にすすめる。	[1-1] 学長取り纏めのもと、三つの方針の一体的策定と、それらに基づく教学マネジメントの推進がされた。その一つであるアドミッションポリシーについて策定、見直しを年度内にすすめた。	[1-1] アドミッションポリシーについて策定、見直しを年度内にすすめ、来年度の入試ガイド、ホームページでの公開準備に至った。
	[1-2] 募集定員、入試制度、選考方法等について、入試ガイド、ＡＯガイド、ＨＰ、入試要項等に明示するほか、入学後の成績・学籍状況を調査し、それぞれの制度における選考方法と合否判定が適切か検証・評価する。	[1-2] 募集定員、入試制度、選抜方法等について、入試ガイド、ＡＯガイド、ＨＰ、入試要項等に明示し、入学後の成績・学籍状況（卒業した人数、就職率、中退率）を調査し、それぞれの制度における判定が適切かどうか関係部署と連携し検証・評価した。	[1-2] 入試要項、ホームページでの明示をし、入学後の成績・学籍状況（卒業した人数、就職率、中退率）を調査し、それぞれの制度における判定が適切かどうか関係部署と連携し検証・評価した。引き続き次年度も、調査した結果を、それぞれの制度において検証・評価を行いたい。
	[1-3] 成績優秀者奨学金、資格取得者奨学金、課外活動特待奨励金に該当する学生の学修状況・成果の把握を可視化する。	[1-3] 成績優秀者奨学金、資格取得者奨学金、課外活動特待奨励金に該当する学生の学修状況・成果の把握を可視化する。	[1-3] 上記指標については、一部変更し今年度実施に至ったが、次年度に向けて改善点も多く、関係部署とさらなる連携し体制を整えたい。
2017年度	年次計画内容		
	[1-1] 高大接続システム改革に伴い、新たに策定されたアドミッションポリシーについて、受験生や高校へ十分周知する。		
	[1-2] 募集定員、入試制度、選考方法等について、入試ガイド、ＡＯガイド、ＨＰ、入試要項等に明示するほか、入学後の成績・学籍状況を調査し、それぞれの制度における選考方法と合否判定が適切か検証・評価する。		
	[1-3] 成績優秀者奨学金、資格取得者奨学金、課外活動特待奨励金に該当する学生の学修状況・成果の把握を可視化する。		

中期計画【計画２】（目標２に対応する計画）	達成度評価指標【指標２】
[2-1] 収容定員に対する在籍学生比率の適正化を検証する。 [2-2] 定員に対する在籍学生数の未充足に対する対策を検討する。 [2-3] 各学部の合否基準を明確にし、一定の学力・意欲・適応力のレベルを保ちつつ、偏差値を意識しながら、中期的に安定した定員充足が出来るような学生募集方法を検討し、その成果を検証する。	[2-1,2-2 共通] ①入学定員充足率　②収容定員充足率 [2-3] ①合格最低点、得点率、手続者数一覧 ②年度別入学者の平均点一覧 ③年度別休退除籍者数一覧 ④各学科修学指導対象者一覧

	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
2016年度	[2-1] 2017 年度入学者 600 名、2018 年度入学者 650 名、2019 年度入学者 700 名を目標として、今後 3 年間で安定的な定員が確保出来るよう様々な入試広報活動を推進し、検証・評価する。	[2-1] 今後 3 年間で安定的な定員が確保出来るよう入試広報活動を推進した。	[2-1] 2017 年度の入学者 600 名を目指すべくすすめてきたが、結果 594 名と今一歩目標には届かなかったが、前年比としては伸びた。
	[2-2] ①オープンキャンパスの参加者数の増加及び目的意識の高い参加者のリピート率をあげるための広報及び企画の充実を図る。 ②大学進学セミナーの参加者数の増加及び本学オープンキャンパスと併せて参加させるための広報及び企画の充実を図る。 ③入学案内、入試ガイド、支援力レポート、学科パンフレット、ＨＰなど、	[2-2] ①オープンキャンパスの参加者数の増加及び目的意識の高い参加者のリピート率をあげるための広報及び企画の充実を図った。 ②大学進学セミナーの参加者数を増加させるための広報及び企画の充実を図った。 ③入学案内、入試ガイド、支援力レポート、学科チラシ、ＨＰなど、大学及び学部学科の売り、実績を	[2-2] ①オープンキャンパスの参加者数を増加させ、目的意識の高い参加者を募るための広報及び企画の充実を図ったが、参加者数が大幅に増えることはなかった。 ②大学進学セミナーの参加者数を増加させるための広報及び企画の充実を図ったが、参加者数が大幅に増えることはなかった。しかし、参加者数に見合う規模の会場へ変更することにより、ア

	大学及び学部学科の売り、実績を伝えられるような広報物を関係部署と連携し、高校生に見てもらえる、そして本学を選ぶ手段の一つとなるよう製作する。 ④直接接触型の進学相談会、校内ガイダンスを重視し、職員学生募集プロジェクトメンバー及び広報入試委員と連携して、可能な限り参加する。 ⑤広報入試課及び各学科と高校訪問の連携を図り、北海道、北東北地区における訪問を強化する。 ⑥高大連携プログラムでは、出張講義、大学説明、大学見学、さらには教員向けの大学説明等のメニューを紹介するサイトを充実させ、申込数の増加を図る。 ⑦資料請求登録システムを活用し、システムの解析データ及び費用対効果を見つつ広報媒体を見直す。	伝えられるような広報物を関係部署と連携し、高校生に見てもらえる、そして本学を選ぶ手段の一つとなるよう製作した。 ④直接接触型の進学相談会、校内ガイダンスを重視し、職員学生募集プロジェクトメンバー及び広報入試委員と連携して、可能な限り参加した。 ⑤広報入試課及び各学科と高校訪問の連携を図り、北海道、北東北地区における訪問を強化した。 ⑥高大連携プログラムでは、出張講義、大学説明、大学見学、さらには教員向けの大学説明等のメニューを紹介するサイトを充実させ、申込数の増加を図った。 ⑦資料請求登録システムを活用し、システムの解析データ及び費用対効果を見ながら広報媒体を見直した。	ットホームな環境を作り、参加者からは好評であり、なおかつ経費削減につなげた。 ③入学案内（30,000 部）、入試ガイド（20,000 部）、支援力レポート（10,000 部）、学科チラシ、ＨＰなど、大学及び学部学科の売り、実績を伝えられるような広報物を関係部署と連携し、制作を強化した。なお、昨年度予算計上されなかった学科パンフレット予算については、今年度認められ、作成枚数に制限があったが、オープンキャンパス等で活用することができた。次年度もほぼ同額の予算が認められているため、制作費の交渉や印刷業者の選定をあらためてし、作成枚数を増加させたい。 ④直接接触型の進学相談会、校内ガイダンスを重視し、職員学生募集プロジェクトメンバー及び入試委員との連携、また、広報入試課の人員も増員したことから、今まで参加出来なかった地域にも力を入れ、可能な限り参加した。 ⑤広報入試課及び各学科と高校訪問の連携を図り、北海道、北東北地区における訪問をさらに強化したが、石狩圏内等、手薄になる地域があり、全体数として減少してしまった。次年度は新学部設立にも関わるため、道内はもちろん他の地域も可能な限りくまなく回りたい。 ⑥高大連携プログラムでは、出張講義、大学説明、大学見学、さらには教員向けの大学説明等のメニューを紹介するサイトを充実させ、申込数の増加を図ったが、大幅に増えることはなかった。 ⑦資料請求登録システムを活用し、システムの解析データ及び費用対効果を見ながら、年度の途中でも広報媒体の見直しを図った。
	[2-3] 全ての入試制度において、高大接続システム改革を視野にいれ、見直し、検討する。 ①ＡＯ入試の実施方法について見直し、再検討する。 ②自己推薦の全学部実施について再検討する。 ③公募制指定スポーツクラブの拡充について学生部と協議する。 ④一般入試の受験科目数及び出題科目について再検討する。 ⑤成績優秀者奨学金の周知及び拡充について検討する。 ⑥特別強化クラブの特待選手人数及び免除内容の拡充を検討する。また、スポーツクラブ（特に女子）の強化・拡充について学生部と協議する。 ⑦インターネット出願の利便性、経済性について引き続き広報する。	[2-3] ①ＡＯ入試の実施方法について見直し、再検討した。 ②自己推薦の全学部実施について再検討した。 ③公募制指定スポーツクラブの拡充について学生部と連携し協議した。 ④一般入試の受験科目数及び出題科目について再検討した。 ⑤成績優秀者奨学金の拡充について検討した。 ⑥特別強化クラブの特待選手人数及び免除内容の拡充を検討した。また、スポーツクラブ（特に女子）の強化・拡充について学生部と連携し協議した。 ⑦インターネット出願の利便性、経済性について引き続き広報した。	[2-3] ①ＡＯ入試の実施方法については昨年度から臨床心理学科のみで実施していたＡＢＯ方式をＡ方式にまとめて実施したが、今年度もエントリー数等に特段影響は出なかった。 ②自己推薦の全学部実施について再検討し、次年度全学部実施する運びとなった。 ③公募制指定スポーツクラブの拡充について学生支援課との連携、また、学長が委員長の下、「クラブ活動「強化支援対策」検討委員会」が設置され、次年度に向けて指定スポーツクラブ及び特別強化クラブについて協議され、現在検討中である。 ④一般入試の受験科目数及び出題科目について再検討したが、次年度は今年度同様とする事とした。 ⑤成績優秀者奨学金の拡充について検討したが、次年度は今年度同様とする事とし、今までの成績優秀者については、関係部署と連携し、在学中の成績について情報を共有した。 ⑥特別強化クラブの特待選手人数及び免除内容の拡充については、完成年度 3 年目を迎えた後検討することとした。また、スポーツクラブ（特に女子）の強化・拡充について学生支援課と協議し、次年度に向けて追加することとした。 ⑦インターネット出願の利便性、経済性について引き続き広報した。特に出願時期が遅い入試制度に関しては利用率が昨年度を上回り 50%を越える結

			果となった。次年度に向けてはさらなる利用率アップを目指し、利便性を追求するべく進めたい。
2017年度	年次計画内容		
	[2-1]　2018年度入学者650名、2019年度入学者700名、2020年度入学者750名を目標として、今後3年間で安定的な定員が確保出来るよう様々な入試広報活動を推進し、検証・評価する。		
	[2-2] ①オープンキャンパスの参加者数の増加及び目的意識の高い参加者のリピート率をあげるための広報及び企画の充実を図る。 ②大学進学セミナーの参加者数の増加及び本学オープンキャンパスと併せて参加させるための広報及び企画の充実を図る。 ③入学案内、入試ガイド、支援力レポート、学科チラシ、ＨＰなど、大学及び学部学科の売り、実績を伝えられるような広報物を関係部署と連携し、高校生に見てもらえる、そして本学を選ぶ手段の一つとなるよう製作する。 ④直接接触型の進学相談会、校内ガイダンスを重視し、学生募集プロジェクトメンバー及び広報入試委員と連携して、可能な限り参加する。 ⑤広報入試課及び各学科と高校訪問の連携を図り、北海道、北東北地区における訪問を強化する。 ⑥高大連携プログラムでは、出張講義、大学説明、大学見学、さらには教員向けの大学説明等のメニューを紹介するサイトを充実させ、申込数の増加を図る。 ⑦資料請求登録システムを活用し、システムの解析データ及び費用対効果を見つつ広報媒体を見直す。		
	[2-3] ①全ての入試制度において、高大接続システム改革を視野にいれ、見直し検討する。 ②インターネット出願の利便性、経済性について引き続き検討すると共に、広報を強化する。		

（２）アクセシビリティ推進委員会

中期計画【計画１】（目標１に対応する計画）			達成度評価指標【指標１】
[1-1]　障がいのある学生の受け入れ方針を示す。 [1-2]　障がいのある学生の受け入れ方針に基づいて受け入れた学生の成長を、当該学生の学修成果に基づいて検証する。			[1-1]①入試要項、ホームページでの公開 [1-2]①GPA、②進路決定状況（業種別等を含む）、③資格等取得状況、④学位授与率・４年間卒業率
2016年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[1-1] (1)「札幌学院大学障がい学生の受入れ及び支援に関する基本方針」の改定に伴い、学内外への周知について検討する。 (2)「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」（障害者差別解消法）の施行に伴い、本学の支援内容等をまとめた「障がい学生支援紹介パンフレット」を発行する。	[1-1]　基本方針については、本学ホームページ上で公開している。 本学の支援内容等をまとめたパンフレット「札幌学院大学サポートセンター」を作成･発行し、オープンキャンパス等で配布した。	[1-1] 資料：入試要項 資料:「聴覚障がいのある受験生のためのガイドブック」 資料：本学ホームページ「障がい学生支援」 資料：「札幌学院大学サポートセンター」パンフレット
	[1-2]　障がいのある学生の学業成績（GPA、資格取得状況など）の情報を把握し、必要に応じて関係各所との協力により支援体制を確保する。	[1-2]　成績確定後（前期・後期の２回）に、アクセシビリティ推進委員会の会議において、障がいのある学生の学業成績（GPA、単位修得状況）の情報を確認し、関係各所と状況共有するとともに、必要な支援を行った。 また、１年生とはこの１年間を振り返っての面談を実施し、改善等が必要な事柄について確認を行った。	[1-2] ①GPA、②進路決定状況 資料：障がい学生・支援学生修学状況および就職状況について （第 10 回アクセシビリティ推進委員会回収資料 9） GPA3.0 以上 7 名・就職 6 名
2017年度	年次計画内容		
	[1-1]　「札幌学院大学障がい学生の受入れ及び支援に関する基本方針」をホームページ上で示すとともに、その適正な運用に努める。		
	[1-2]　障がいのある学生の学業成績（GPA、資格取得状況など）の情報を把握し、必要に応じて関係各所との協力により支援体制を確保する。		

（３）経営学部

中期計画【計画１】（目標１に対応する計画）			達成度評価指標【指標１】
[1-1]　もとめる学生像および、当該課程に入学するにあたり、修得しておくべき知識等の内容・水準を入試要項、ホームページなどで明示する。 [1-2]　障がいのある学生の受け入れ方針を示す。 [1-3]　学生の受け入れ方針に基づいて受け入れた学生の成長を、当該学生の学修成果に基づいて検証する。その際、単位取得、GPA、進路決定状況など具体的な数値よって検証する。			[1-1,1-2 共通] ①入試要項、ホームページでの公開 [1-3] ①学生満足度調査 ②卒業生満足度調査 ③入学年度別 GPA 分布・推移 ④進路決定状況（業種別等を含む） ⑤資格等取得状況 ⑥入学年度別学位授与率・４年間卒業率
2016年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[1-1]　もとめる学生像および修得しておくべき知識等の内容・水準を明示する。	学部のホームページを通じて明示した。	適切に情報を公開することが出来た。

	[1-2]　障がいのある学生の受け入れ方針を示す。	示すことが出来なかった。	公開することが出来なかった。
	[1-3]　学生の受け入れ方針に基づいて受け入れた学生の成長について検証する。	教務委員会において検証を行なった。	学科ごと、専攻ごと、ゼミごとに個別に指導できるデータを提供した。
2017年度	年次計画内容		
	[1-1]　もとめる学生像および修得しておくべき知識等の内容・水準を明示する。		
	[1-2]　障がいのある学生の受け入れ方針を示す。		
	[1-3]　学生の受け入れ方針に基づいて受け入れた学生の成長について検証する。		

中期計画【計画２】（目標２に対応する計画）			達成度評価指標【指標２】
[2-1]　収容定員に対する在籍学生比率の適切性を検証する。 [2-2]　定員に対する在籍学生数の過剰・未充足に関して、会計ファイナンス学科の定員を 2014 年度から削減したが、さらに経営学科も含め大学執行部、理事会などと連携をとりながら対応を行う。			[2-1,2-2 共通] ①入学定員充足率 ②収容定員充足率
2016年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[2-1]　収容定員に対する在籍学生比率の適切性について引き続き検証を行なう。	2015 年度に引き続き、教務委員会において検証を行っている。	目標は達成できていないが今後改善を図っていく。
	[2-2]　学部全体の定員についての検討を続ける。	2015 年度に引き続き、検討を行っている。	更なる検討が必要である。
2017年度	年次計画内容		
	[2-1]　収容定員に対する在籍学生比率の適切性について引き続き検証を行なう。		
	[2-2]　学部全体の定員についての検討を続ける。		

（４）経済学部

中期計画【計画１】（目標１に対応する計画）			達成度評価指標【指標１】
[1-1]　求める学生像および、経済学部の教育内容を明示する。 [1-2]　学生の受け入れ方針に基づいて受け入れた学生の成長を検証する。 [1-3]　ＡＯ入試や推薦入学入試制度の検証を継続し、入試手段別に入学者学生の現況を把握する。 [1-4]　指定高校などの高大連携を図り、初年次学生の基礎力の担保を推進する。			[1-1]①入試要項、ホームページでの公開 [1-2]①修学ポートフォリオ提出状況 [1-3] ①学生満足度調査 ②卒業生満足度調査 ③入学年度別 GPA 分布・推移 ④進路決定状況（業種別等を含む） ⑤資格等取得状況 ⑥入学年度別学位授与率・４年間卒業率 [1-4]①高校巡回実施状況
2016年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[1-1]　経済学部ホームページにおいて求める学生像および、経済学部の教育内容を更新する。	経済学部独自のホームページを更新し、現カリキュラムの教育内容を伝えている。	求める学生像および、経済学部の教育内容は明示できた。導入教育、インターンシップの部分は完了していない。次年度更新する。AO 入試の課題は経済学部ホームページで公開した。
	[1-2] 1)修学ポートフォリオの項目を検討するとともに、学生自身で成長を確認させる。 2)ポートフォリオを用いた学生一人ひとりの修学指導の方法を検討する。	1) 1，2 年生に対して修学指導を実施した。 2)継続的に修学ポートフォリオを実施しているが指導方法については検討していない。	学生の成長を支援する施策は実施しているが、受け入れた学生の成長を検証することは未完全である。
	[1-3]　入試手段別の成績および学籍異動を分析し、入学者の今後の動向の注意点を探る。	昨年度入試手段別の成績および学籍異動の基礎資料の作成はしたが、さらなる分析は行っていない。次年度の課題である。	入試手段別に入学者学生の現況をしっかりととらえるところまでは至っていない。
	[1-4] 1)入学前学習の状況を高校に説明する。 2)高校巡回において在学生の状況を一人ひとり説明できるよう、昨年度以上に情報を共有する。	1)入学前学習の内容、結果は、高校巡回で逐次説明を行なった。 2)在学生の状況を把握するため、はぐくみへの記入を促した。	指定高校などの高大連携は具体的には検討していない。しかし、初年次学生の基礎力の担保を推進するよう、努めた。
2017年度	年次計画内容		
	[1-1]　経済学部ホームページにおいて導入教育、インターンシップ及び研究紀要の内容を更新する。		
	[1-2] 1)修学ポートフォリオの項目を検討するとともに、学生自身で成長を確認させる。 2)ポートフォリオを用いた学生一人ひとりの修学指導の方法を検討する。		
	[1-3]　入試手段別の成績および学籍異動を分析し、入学者の今後の動向の注意点を探る。		
	[1-4] 1)入学前学習の状況を高校に説明する。 2)高校巡回において在学生の状況を一人ひとり説明できるよう、昨年度以上に情報を共有する。		

中期計画【計画２】（目標２に対応する計画）	達成度評価指標【指標２】
[2-1]　収容定員に対する在籍学生比率の適切性を検証する。 [2-2]　定員に対する在籍学生数の過剰・未充足に関する検討を行う。	[2-1,2-2 共通] ①入学定員充足率 ②収容定員充足率

	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
2016年度	[2-1]　定員の確保に努力する。過去 5 年間の入試手段別の定員充足率を元に、重点化すべき入試対策を検討する。	従来の高校巡回に加え、校長先生を訪問する高校巡回を行うことにより、学部の魅力をアピールすることに努めた。	①入学定員充足率は 64%と前年度に比べて若干高くなっているが、十分ではない。当面は 80%台を目標にしたい。特に、一般入試の充足率が低いため、これを高めるような入試広報を行いたい。 ②収容定員充足率も 60.4%となっていて昨年度を下回る結果となった。入学定員充足率を上げることによりさらに高くなるよう努めたい。
	[2-2]　入試制度の検討を昨年度に続き行う。	全学的な流れの中で自己推薦入試を導入することを決めた。	入試制度の変更を今年度決めたが、引き続き検討を行う。
2017年度	年次計画内容		
	[2-1]　定員の確保に努力する。過去 5 年間の入試手段別の定員充足率を元に、重点化すべき入試対策を検討する。		
	[2-2]　入試制度の検討を昨年度に続き行う。		

（５）人文学部人間科学科

中期計画【計画１】（目標１に対応する計画）	達成度評価指標【指標１】
[1-1]　もとめる学生像および、当該課程に入学するにあたり、修得しておくべき知識等の内容・水準を明示する。 [1-2]　アクセシビリティ推進委員会との連携のもとに障がいのある学生の受け入れ方針を示す。 [1-3]　学生の受け入れ方針に基づいて受け入れた学生の成長を、当該学生の学修成果に基づいて検証する。	[1-1,1-2 共通] 入試要項、ホームページでの公開 [1-3] ①学修行動調査 ②学生満足度調査の活用 ③卒業生満足度調査の活用 ④入学年度別 GPA 分布・推移 ⑤進路決定状況（業種別等を含む） ⑥資格等取得状況 ⑦入学年度別学位授与率

	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
2016年度	[1-1] もとめる学生像および入学するにあたり修得しておくべき知識等については、入試ガイド、AO ガイド、ホームページ等を通じて明示するとともに、オープンキャンパス、進学相談会等を通じて、受験生に周知する。	もとめる学生像および入学するにあたり修得しておくべき知識等については、入試ガイド、AO ガイド、ホームページ等を通じて明示するとともに、オープンキャンパス、進学相談会等を通じて、受験生に周知した。	学科教員による出張講義を 4 回実施した。進学相談会・構内ガイダンスにおける対応件数が 298 件、大学進学セミナーにおける対応件数が 5 件、4 回のオープンキャンパスにおける対応件数（希望学科として本学科を選んだ件数）が 271 件であった。また、学科教員が 2 つの高校を訪問した。
	[1-2] 学科としての障がいのある学生の受け入れ方針とその示し方は、2016 年度に改定した「札幌学院大学障がい学生の受入れ及び支援に関する基本方針」及びアクセシビリティ推進委員会によるホームページ、パンフレット等にしたがって行う。	アクセシビリティ推進委員会による障がいのある学生の受け入れ方針にしたがって適切に実施している。 2016 年度は人間科学科に 4 名の学生が入学し、アクセシビリティ推進委員会・担任教員・教育支援課担当職員の連携のもとに、入学前と入学後の対応を適切に実施した。	アクセシビリティ推進委員会による大学としての受け入れ方針をホームページで公開している。 【指標 本学 HP 掲載内容】
	[1-3] 達成度評価指標のいずれかを用いて、受け入れた学生や卒業生の学修成果について検証を行う。	2016年度のGPAを学年別に取りまとめ、学年別の特徴について調査した。	2013 年~2014 年度生と 2015 年～2016 年度生の両者の GPA を比較すると、前者とは異なり、後者の場合、成績分布が正規分布に近いという特徴がみられた。これが一過性のものであるか否かについて、引き続き検証していく必要がある。 【指標「人文学部入学年度別　2016 年度 GPA 分布図】
2017年度	年次計画内容		
	[1-1] もとめる学生像および入学するにあたり修得しておくべき知識等については、入試ガイド、AO ガイド、ホームページ等を通じて明示するとともに、オープンキャンパス、進学相談会等を通じて、受験生に周知する。		
	[1-2]　学科としての障がいのある学生の受け入れ方針とその示し方は、「札幌学院大学　障がい学生の受入れ及び支援に関する基本方針」及びアクセシビリティ推進委員会によるホームページ、パンフレット等にしたがって行う。		
	[1-3] 昨年度に引き続いて、GPA での成績分布の学年別差異や特徴について検討を進めていく。		

中期計画【計画２】（目標２に対応する計画）	達成度評価指標【指標２】
[2-1]　収容定員に対する在籍学生比率の適切性を検証する。 [2-2]　定員に対する在籍学生数の過剰・未充足に関する対応を行う。	[2-1,2-2 共通] ①入学定員充足率 ②収容定員充足率

	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
2016年度	[2-1] 収容定員に対する在籍学生比率の動向を把握する。	収容定員 520 人（130 人×4 学年）に対して、2012 年度から 2016 年度までの在籍学生比率を把握した。	2012 年度から 2016 年度までの収容定員充足率（②）の推移は、0.98、0.95、0.86、0.76、0.65。

	[2-2] 定員確保を目標とする。入試課と連携し、高校訪問、進学相談会、大学進学セミナーを通じて、学科カリキュラムの魅力を伝える。また、在学生とも連携しオープンキャンパスにおけるミニ講義等を通じて、学科カリキュラムの魅力を伝える。	定員確保を目標として、広報・入試課と連携し、高校訪問、進学相談会、大学進学セミナーを通じて、学科カリキュラムの魅力を伝える。また、オープンキャンパスにおけるミニ講義等を通じて、学科カリキュラムの魅力を積極的に伝えた。	目標の達成にはいたらなかった。2012 年からの 2016 年度までの入学定員充足率（①）の推移は、0.95、0.88、0.65、0.56、0.52。
2017 年度	年次計画内容		
	[2-1] 収容定員に対する在籍学生比率の動向を把握する。		
	[2-2] 定員確保を目標とする。入試課と連携し、高校訪問、進学相談会、大学進学セミナーを通じて、人間科学科での学びの魅力を伝える。また、在学生とも連携しオープンキャンパスにおけるミニ講義などの学科企画等を通じて、人間科学科での学びの魅力を伝える。		

（６）人文学部英語英米文学科

中期計画【計画１】（目標１に対応する計画）			達成度評価指標【指標１】
[1-1] 求める学生像および、当該課程に入学するにあたり、修得しておくべき知識等の内容・水準を明示する。 [1-2] 学生の受け入れ方針に基づいて受け入れた学生の成長を、当該学生の学修成果に基づいて検証する。			[1-1] 入試要項、ホームページでの公開 [1-2] ①入学年度別 GPA 分布・推移 ②進路決定状況（業種別等を含む） ③資格等取得状況 ④入学年度別学位授与率・４年間卒業率
2016 年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[1-1] アドミッション・ポリシーの周知をさらに徹底する。具体的には、オープンキャンパス・出張講義・進学相談会などの場を活用する。	5回実施されるオープンキャンパスの学科説明会や個別相談会、学外での進学相談会や校内ガイダンスにて、アドミッション・ポリシーの周知を徹底した。英語関連の出張講義やミニ講義でも、部分的にアドミッション・ポリシーに言及するなどの工夫も行なった。	入試要項、ホームページでの公開を行なった。 【指標「大学ウェブサイト」】
	[1-2] 4 年生に関して、その成長を GPA の推移や資格取得状況などのデータから可視化するとともに、学生の成長を継続的に支援する仕組みについての検討を進める。	前年度の取り組みを継承し、4 年生に関する TOEIC のスコアの推移・留学状況・国際交流活動参加状況・進路決定状況、GPA の推移のデータ一覧を作成して、学生の成長を継続的に支援するための仕組みについてさらに検討を進めた。特に、2016 年度の GPA の推移データが示す 4 年生の成績の傾向から、2 年次における指導体制の充実が学びの支援に重要であることが明らかになった。	前年度からの取り組みを継続して行い、学生の成長を支援するための仕組みについて検証を進めることができた。 【指標「2016 年度 10 月学科会議別添資料　英語英米文学科外国留学奨学生申込者一覧」「2016 年度 3 月学科会議資料学位授与式の学科代表について（4 年生取得単位・GPA 一覧）」「内定状況」「人文学部入学年度別 GPA 推移」】
2017 年度	年次計画内容		
	[1-1] アドミッション・ポリシーの周知をさらに徹底する。具体的には、オープンキャンパス・出張講義・進学相談会・高校訪問などの場を活用する。		
	[1-2] 4 年生に関して、その成長を GPA の推移や資格取得状況などのデータから可視化するとともに、学生の成長を支援する仕組みについての検討を継続して行う。		

中期計画【計画２】（目標２に対応する計画）			達成度評価指標【指標２】
[2-1] 収容定員に対する在籍学生比率の適切性を検証する。 [2-2] 定員に対する在籍学生数の過剰・未充足に関する対応を行う。 [2-3] 魅力的な対外広報を行なう。			[2-1] ② 入学定員充足率 ① 収容定員充足率 [2-2] オープンキャンパス・大学相談会参加状況 [2-3] ホームページ・ブログ・入試課で行なうアンケート
2016 年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[2-1] 過去 5 年間（2012 年度から 2016 年度入試）の収容定員に対する在学生比率を算出する。	過去 5 年間で、4 学年全体の収容定員に対する在学生比率が 1.0 を上回った年度はない。しかし、定員変更と 2014 年度の定員充足率が 1.0 を超えたため、在学生比率は昨年度の 0.89（4/24 時点）から 0.94（4/25 時点）と改善した。	算出は行なった。次年度も継続するとともに、定員充足率の上昇に向け、より魅力的な広報の策を練る必要がある。 【指標②】 【指標「2015 年度第 2 回英語英米文学科会議資料」】 【指標「2016 年度第 2 回英語英米文学科会議資料」】
	[2-2] 過去 5 年間を見る限り、本学科が定員を超えたのは 2014 年度のみであり、恒常的に定員未充足の状態が続く。2017 年度入試では定員を確保すべく、高校訪問等で高校教員に、オープンキャンパスや進学相談会等で高校	進路指導部訪問だけでなく、本学科の OB･OG 教員や知人教員を訪問し、高校教員へのアピールに努めた。 オープンキャンパスでは学科のアドミッション･ポリシーやカリキュラム・ポリシーを説明し、かつ、高校生にも理解できる難易度で本学科の学びを体験してもらうコンテンツを用	進学相談会・校内ガイダンスで英語英米文学科への相談者数は、2015 年度は 205 人（全 186 回）に対し、2016 年度は 149 人（全 175 回）と減少した。また、全 5 回開催（前年度 3 月から今年度 11 月まで）のオープンキャンパスの来場者で本学科に興味を示した合計人数は、2015 年度は 161 名に対し、2016 年度は 140 名に減った。来年度は本学科の広報を一層強化

	生や保護者に、本学科の魅力や雰囲気の良さをアピールする。	意した。進学相談会や校内ガイダンス等も可能な限り入試委員が参加し、高校生へのアピールに努めた。	せねばならない。 【指標「2015 年度進学相談会・校内ガイダンス集計表」】 【指標「2016 年度進学相談会・校内ガイダンス集計表」】 【指標「2016 年度オープンキャンパス参加者数集計表」】
	[2-3]　本学科をアピールする方策として、ホームページやブログのコンテンツの整理の検討を引き続き行う。	今年度は学科ホームページのリニューアルが行われ、コンテンツの整理が進められた。また学科ブログでは引き続き学生たちの学びや生活の様子を発信し、学科の教育内容と魅力のアピールに務めた。	今年度はホームページのコンテンツ整理と学科ブログによる発信を行うことができた。来年度以降も同様の取り組みを続けていきたい。 【指標「学科ホームページ」「学科ブログ」】
2017年度	年次計画内容		
	[2-1]　過去 5 年間（2013 年度から 2017 年度入試）の収容定員に対する在学生比率を算出する。		
	[2-2]　過去 5 年間を見る限り、本学科が定員を超えたのは 2014 年度のみであり、恒常的に定員未充足の状態が続く。2018 年度入試では定員を確保すべく、高校訪問等で高校教員に、オープンキャンパスや進学相談会等で高校生や保護者に、本学科の魅力や雰囲気の良さをアピールする。		
	[2-3]　本学科をアピールする方策として、新ホームページとブログによる発信を継続して行う。		

（７）人文学部臨床心理学科

中期計画【計画１】（目標１に対応する計画）			達成度評価指標【指標１】
[1-1]　アドミッション・ポリシーを刊行物・ＨＰなどで公開する [1-2]　アクセシビリティ委員会、バリアフリー委員会と連携し、障害を持つ学生の受け入れ態勢を整備する。 [1-3]　学生の受け入れ方針に基づいて受け入れた学生の成長を、当該学生の学修成果に基づいて検証する。			[1-1,1-2 共通] 入試要項、ホームページでの公開 [1-3] ①学生満足度調査 ②卒業生満足度調査
2016年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[1-1]　アドミッション･ポリシーを HP に掲載したり、オープンキャンパスの際に説明したりする。	アドミッション・ポリシーを HP に掲載し、オープンキャンパスで毎回説明した。	実施済み 【指標なし】
	[1-2]　アクセシビリティ委員会、バリアフリー委員会と連携し、配慮事項を徹底させる。	アクセシビリティ委員会、バリアフリー委員会との連携を学科会議で確認した。	実施済み 【指標なし】
	[1-3]　入試方法によって、GPA の推移、進路決定状況、資格取状況に違いがあるかを検証する。	入試形態の違いによる GPA や進路決定状況、資格等取得状況などの、膨大な量的データの経年変化について検討するために、データの統合を試みた。	試みてみたところデータ整理のデザインが全学的に整っていないことがわかった。このままでは膨大な量的データが活かしきれずもったいないことがわかった。次年度全学的にデータ整理の方法を整えていく必要がある。 【指標なし】
2017年度	年次計画内容		
	[1-1] 前年度同様、アドミッション・ポリシーを HP に掲載したり、オープンキャンパスの際に説明したりすることを継続する。		
	[1-2] 前年度同様、アクセシビリティ委員会、バリアフリー委員会と連携し、配慮事項を徹底させる。		
	[1-3] 上記のようにデータベース案をつくり、入試方法によって、GPA の推移、進路決定状況、資格取状況に違いがあるかを検証できるようにする。		

中期計画【計画２】（目標２に対応する計画）			達成度評価指標【指標２】
[2-1]　収容定員に対する在籍学生比率の適切性を検証する。 [2-2]　定員に対する在籍学生数の過剰・未充足に関する対応を行う。			[2-1,2-2 共通] ①入学定員充足率 ②収容定員充足率
2016年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[2-2]　定員に対する在籍学生数の未充足に関する対応として、2014 年度から開始した高校生向けの心理学講座を継続し、入学希望者層を開拓すると同時に、学科知名度を上げるために高校に広報をする。	高校生向けの心理学講座を２回、加えて心理学を用いる仕事のキャリア育成説明会を実施した。これにより、多くの高校生が参加すると共に、全道の高校に広報を行うことができた。	高校生のための心理学講座および「心理のお仕事」の広報活動として、全道 125 校に本学臨床心理学科のチラシを送付することができたるので、本学科知名度向上に一定の寄与があったと思われる。【指標なし】
2017年度	年次計画内容		
	[2-2]「心理学部」開設にあたり、定員 95 名の充足に向けて、広報の充実を計る。昨年度に引き続き、高校生向けの心理学講座を開催するほか、教員向けの心理学講座も開催し、本学における教育力を対外的に広報する。また、高校生に向けて「心理学」の面白さをアピールするパンフレットを作成し配布する。		

（８）人文学部こども発達学科

中期計画【計画１】（目標１に対応する計画）	達成度評価指標【指標１】
[1-1]　こども発達学科がもとめる学生像、当該課程に入学するにあたり修得しておくべき知識等について、その内容・水準等を明示する。 [1-2]　障がいのある学生の受け入れ方針を示す [1-3]　修学において支援を要する学生への措置を適切に行う。 [1-4]　学生の受け入れ方針に基づいて受け入れた学生の成長過程を、当該学生の	[1-1、1-2、1-3 共通] ①入試要項、入試関連の広報媒体、ホームページ ②高校訪問・OP・進学相談会等での実績 ③入学前学習

学修成果を基に検証・共有化する。			[1-4] ①学生生活満足度調査 ②卒業予定者への調査 ③入学年度別 GPA 分布・推移 ④進路決定状況（業種別等を含む） ⑤教員・保育士採用等の採用状況 ⑥入学年度別学位授与率・４年間卒業率 ⑥「はぐくみ」の利用
2016年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[1-1]　こども発達学科がもとめる学生像や入学するにあたり修得しておくべき知識の内容・水準を入試広報物およびホームページ等で受験生に明示する。さらに、入学予定者に対しては入学前学習を課す。	もとめる学生像や入学するにあたり修得しておくべき知識の内容・水準を受験生に明示した。さらに、入学予定者に対しては入学前学習を課した。	対処を 3/3 実施。検証を 1/2 を実施。達成 0/1 を実施。 【指標「計画表」D5-1:入学生への内容・水準等を明示】 【指標「入学案内」】 【指標②】 【指標「推薦,ＡＯ入学者入学前学習指導」】
	[1-2]　障がいのある学生の受け入れに際しては、アクセシビリティ推進委員会と連携しながら環境整備を進める。	来年度入学する聴覚に障がいのある新入生に対して、アクセシビリティ推進委員会と学科関係者で入学前面談を実施し、修学上必要な配慮や要望等について確認した。これについて学科会議で報告し、学科全教職員で共有した。また、学科会議において、聴覚に障がいのある学生支援に関するガイドブック 2 冊と映像教材への字幕挿入サービスの案内を配布し、修学上の留意点や準備すべき事項について全教員に周知した。	対処を 3/3 実施。検証を 2/2 を実施。達成 1/1 を実施。 【指標「計画表」D5-1:障がいのある学生の受け入れ方針】 【指標「入学案内」】 【指標②】 【指標「推薦,ＡＯ入学者入学前学習指導」】 【根拠資料　入学前面談シート（聴覚障がい、Ｔさん）】 【根拠資料「誰でもできる情報保障のコツ～一歩進んだサポートをするために」】 【根拠資料「聴覚障がいのある受験生のためのガイドブック」】 【根拠資料「映像教材への字幕挿入サービスのご案内」】
	[1-3]　修学において支援を要する学生に対しては、学科内で情報を共有するとともに、適宜関係部署と連携しながら修学支援の内容を考えていく。	在籍する軽度難聴学生(2年生Ｍさん)について、アクセシビリティ推進委員会と連携し、本人の確認を得て、学期開始時に授業担当者宛に配慮のお願い文書を配布した。また、前期末に授業担当教員から聞こえの具合が変化しているのではという指摘があり、本人と面談を行った上で、後期前に修学上の配慮のお願い文書を配布した。 年度末に、修学状況について本人および履修科目担当教員に対して聴き取り調査を実施し、学科会議で報告し、次年度に向けた課題を整理した。	対処を 2/3 実施。検証を 1/2 を実施。達成 0/1 を実施。 【根拠資料「難聴学生Ｍさんに対する授業配慮についての　お願い」】（前期、後期） 【根拠資料　修学状況に関する聴き取り調査（難聴学生Ｍさん、授業担当教員】
	[1-4]　学科内で学生の修学状況や進路希望などについて情報を交換するとともに、学生の単位取得状況、教員採用状況、卒業後の進路等についても学科会議などで情報を共有する。	学科会議で学生の修学状況や進路希望、学生の単位取得状況、教員採用状況、卒業後の進路等について情報を共有した。また、修学状況の把握に「はぐくみ」を一部の教員が活用した。さらに、単位取得状況が思わしくない学生については、担当する教職員が本人や保護者との面談記録を作成し、学科会議で報告するなどして情報を共有している。	対処を 2/3 実施。検証を 0/2 を実施。達成 0/1 を実施。 【【指標「計画表」D5-1:学生の成長過程と学修成果より検証・共有化】 【指標③】 【指標②進路決定状況】 【指標「卒業率・進級率推移表」】 【指標「コミュニケーション記録登録件数」】 【指標「こ発在学生の進路希望調査」】
2017年度	年次計画内容		
	[1-1]　こども発達学科がもとめる学生像や入学するにあたり修得しておくべき知識の内容・水準を入試広報物およびホームページ等で受験生に明示する。また、在学生へこれらが入学前にきちんと周知され、大学での学習に活かされているか検証する。さらに、入学予定者に対しては入学前学習を課す。		
	[1-2]　障がいのある学生の受け入れに際しては、アクセシビリティ推進委員会と連携しながら環境整備を進める。		
	[1-3]　修学において支援を要する学生に対しては、学科内で情報を共有するとともに、適宜関係部署と連携しながら修学支援の内容を考えていく。		
	[1-4]　学科内で学生の修学状況や進路希望などについて情報を交換するとともに、学生の単位取得状況、教員採用状況、卒業後の進路等についても学科会議などで情報を共有する。卒業生間や大学との連携強化に活かす。また、修学状況の把握に「はぐくみ」を活用する。		

中期計画【計画２】（目標２に対応する計画）			達成度評価指標【指標２】
[2-1]　収容定員に対する在籍学生比率の適切性を検証し、再編方針を決定する。 [2-2]　定員に対する在籍学生数の過剰・未充足に関する対応を行う。 [2-3]　検証した再編方針にもとづき、募集人員の適切性を検証し、確保しうる再編を検討する。			[2-1、2-2 共通] ①入学定員充足率 ②収容定員充足率
2016年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[2-1]　数年にわたる入学定員の変化を集計、分析し、適正比率を検証していく。	数年にわたる入学者数の変化を集計し、入学者増加のめの対策として高校訪問を強化する対策を考え、特に、	対処を 2/2 実施。検証を 1/1 を実施。達成 0/1 を実施。 【指標「計画表」D5-2:収容定員と

		教員採用試験合格学生の母校への高校訪問を秋に実施した。	在籍学生比率の適切性の検証】 【指標①②】
	[2-2]　３年続きで入学定員を割り込む状況について分析し、未充足への対応を考える。	３年にわたる入学者の減少と休退学者の原因分析をして、未充足への対応を考えた。具体的には、全学的に自己推薦入試を導入に加わり、それに併せて、学科に関する各入試制度の定員配分を見直した。	対処を 2/2 実施。検証を 0/1 を実施。達成 0/1 を実施。 【指標「計画表」D5-2:過剰・未充足に関する対応】 【指標①②】
	[2-3]　上記の分析に基づき、今後の改組に向けて、適切な募集人員を検証する。	学部学科の再編の方向に合わせて、学科に新たな入試制度を導入し、各入試制度の定員配分を変更する検討を行い、その方向で実施することとなった。	対処を 1/1 実施。検証を 1/1 を実施。達成 0/1 を実施。 【指標「計画表」D5-2:募集人員の適切性を検証】 【指標①②】
2017年度	年次計画内容		
	[2-1]　収容定員と在籍学生比率の適切性における課題を整理して再編方針を決定する。		
	[2-2]　入学定員を回復する見通しをたて、充足のために効果的な取り組みに注力する。		
	[2-3]　上記の分析に基づき、今後の改組に向けて、適切な募集人員を確保しうる再編を行う。		

（９）法学部

中期計画【計画１】（目標１に対応する計画）	達成度評価指標【指標１】
[1-1]　求める学生像および、当該課程に入学するにあたり、修得しておくべき知識等の内容・水準を明示する。 [1-2]　学生の受け入れ方針が求める学生に成長しているのか検証する。 [1-3]　入試制度の区分に応じた学生の成長を把握し、入試制度の検討を行う。	[1-1] ①入試要項、履修要項での記載、ホームページでの公開実績 [1-2] ①入学年度別学位授与率・4 年間卒業率 ②進路決定状況 ③GPA 分布 ④資格等取得状況 ⑤法学検定試験ベーシックコースの合格状況 ⑥ボランティア活動への参加状況 [1-3] ①入学年度別学位授与率・4 年間卒業率 ②GPA 分布

	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
2016年度	[1-1]　求める学生像､入学するにあたり修得しておくべき知識等の内容・水準を、入試要項、履修要項、ホームページなどで明示する。	入試要項、履修要項いずれにおいても学部の教育目標・三つのポリシーを明記している。ホームページではこれらを高校生にわかりやすく説明している。	入試要項、履修要項を参照；http://www.sgu.ac.jp/law/にて公開。
	[1-2]　学生の受け入れ方針が求める学生に成長しているのかを、単位取得状況、入学年度別学位授与率・4 年間卒業率、進路決定状況､GPA 分布などの指標を通じて検証する。	新カリキュラムが 3 年生を迎えるなか、前年に引き続き法学検定ベーシックに一定数の合格者を出した。法学検定スタンダードにも若干名合格し、これらの学生においては資格のステップアップを果たせた。行政書士の合格者も出しており、学生の成長が多角的に確認できた。卒業率は例年を維持した。	資格取得者表彰 1 名、法学検定ベーシック合格 71 名（3 年生 3 名、2 年生 50 名、1 年生 18 名）、法学検定スタンダード合格 1 名、就職率 89.2%（2 月末時点の 4 年生）、公務員合格延べ 22 名（うち北海道警察現役合格 10 名､道内市町村現役合格 4 名）など。
	[1-3]　入試制度の区分に応じた学生の成長を、入学年度別学位授与率・4 年間卒業率、GPA 分布を通じて把握し、入試制度の検証につなげる。	入学時に編成した基礎演習における「トップアップクラス」および「AO 入試入学者中心クラス」いずれにおいても公務員合格者を輩出しており、卒業率もこれら 2 クラス間で遜色はない。高校の偏差値や入試の難易度にとらわれない、法学部の普遍的教育の成果であるといえる。GPA 分布については新カリキュラム学生において入試制度との連携を踏まえた分析の対象としていきたい。	2016 年度の卒業対象者卒業率 92.3%、4 年間での卒業率 75.9%､前者は前年より 2%ほどアップ、後者は前年より 5%ほどダウンした。
2017年度	年次計画内容		
	[1-1]　求める学生像、入学するにあたり修得しておくべき知識等の内容・水準を、入試要項、履修要項、ホームページなどで明示する。		
	[1-2]　学生の受け入れ方針が求める学生に成長しているのかを、単位取得状況、入学年度別学位授与率･4 年間卒業率、進路決定状況、GPA 分布などの指標を通じて検証する。		
	[1-3]　入試制度の区分に応じた学生の成長を、入学年度別学位授与率・4 年間卒業率、GPA 分布を通じて把握し、入試制度の検証につなげる。なお入試制度と学生の成長との関係をより正確に把握するための仕組みづくりを検証し、場合によっては改善を行う。		

中期計画【計画２】（目標２に対応する計画）	達成度評価指標【指標２】
[2-1]　収容定員に対する在籍学生比率の適切性を検証する。 [2-2]　定員に対する在籍学生数の過剰・未充足に関する対応を行う。	[2-1,2-2 共通] ①入学定員充足率 ②収容定員充足率

2016	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況

年度	[2-1]　入学定員充足率をもって、収容定員に対する在籍学生比率の適切性を検証する。	2014 年度入学生数を底にして入学者数は改善傾向にあり（2015 年度 101 名、2016 年度 112 名）、収容定員充足率も上向いている。	2014 年度の充足率は 38%、2015 年度の充足率は 67%、2016 年度の充足率は 75%である。改善傾向にある。
	[2-2]　収容定員充足率をもって、定員に対する在籍学生数の過不足を検証する。	新カリキュラム完成に近づきつつあり、高校側にも「札幌学院大学法学部といえば公務員養成」という印象が定着しつつある。これを核にした高校訪問を粘り強く展開し、引き続き志願者増加政策を実施している。	2016 年度入学者は実数で 11 名増加した。
2017 年度	年次計画内容		
	[2-1]　在籍学生比率は、当該年度の収容定員および実際の入学者によって変動するため、適切な定員管理ができているかを検証する。		
	[2-2]　在籍学生数の過不足を検証・評価し、適切な定員数を検討する。		

（10）大学院法学研究科

中期計画【計画１】（目標１に対応する計画）			達成度評価指標【指標１】
[1-1]　もとめる学生像および入学前に修得しておくべき知識等の内容・水準を明示する。 [1-2]　入学者選抜方法について、公平性・適切性等の観点から不断に検証する。			[1-1,] ①入学案内・ホームページでの公開 [1-2] ①単位修得状況 ②GPA 分布 ③資格等取得状況 ④学位授与率 ⑤修了生進路状況
2016 年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[1-1]　求める学生像及び入学前に修得しておくべき知識等の内容・水準を示すアドミッション・ポリシーが適切であるか検討する。	[1-1]　求める学生像については、新たに改訂したアドミッション・ポリシーに示されている。入学前に修得しておくべき知識等の内容・水準については、本研究科運営会議で検討を行うにとどまった。	①アドミッション・ポリシーについては、入学案内・ホームページ等で公開済。
	[1-2]　2015 年度に引き続き、入学者選抜方法について、公平性・適切性等の観点から検証する。	入学者選抜方法について、公平性の観点から面接に関して採点方法に一定の工夫を導入した。	研究科委員会の議事録
2017 年度	年次計画内容		
	[1-1]　求める学生像及び入学前に修得しておくべき知識等の内容・水準を示すアドミッション・ポリシーが適切であるか検討する。		
	[1-2]　2016 年度に引き続き、入学者選抜方法について、公平性・適切性等の観点から検証する。		

中期計画【計画２】（目標２に対応する計画）			達成度評価指標【指標２】
[2-1]　収容定員に対する在籍学生比率の適切性を不断に検証する。 [2-2]　定員に対する在籍学生数の過剰・未充足に関する対応を行う。			[2-1,2-2 共通] ①入学定員充足率 ②収容定員充足率
2016 年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[2-1]　2015 年度に引き続き、収容定員に対する在籍学生比率を適切な範囲に収めるよう努める。	[2-1]　収容定員に対する在籍学生比率を適切な範囲に収めるよう努めたが、１名の税法担当教員の指導できる人数には限界があるため、合格者数を抑制せざるをえなかった。	①2016 年度入学定員充足率→60% ②2016 年度収容定員充足率→70%
	[2-2]　定員と入学者数の開きが大きいため、大学院のあり方も含め、適切な定員数を検討する。	[2-2]　地域社会マネジメント研究科との連携も視野に入れた再編については検討に入れなかった。	
2017 年度	年次計画内容		
	[2-1]　2016 年度に引き続き、収容定員に対する在籍学生比率を適切な範囲に収めるよう努める。		
	[2-2]　定員と入学者数の開きが大きいため、大学院のあり方も含め、適切な定員数を検討する。		

（11）大学院臨床心理学研究科

中期計画【計画１】（目標１に対応する計画）			達成度評価指標【指標１】
[1-1]　一般入試ならびに社会人入試(一期、二期)、学内特別選抜入試の制度と内容について運営会議における検討を継続する。 [1-2]　受験生数(社会人を含む)、合格者数を把握し分析する。			[1-1,1-2 に共通] ①受験者数、合格者数リスト
2016 年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[1-1]　三回の入試の状況を把握し、検討を継続する。	計画に沿って遂行した。 学内特別選抜・一期・二期の各入試状況は研究科委員会で報告され、研究科運営委員会において、制度・方法・状況についての検討を継続した。	①　達成
	[1-2]　受験生数(社会人を含む)、合格者数を把握し分析する。	計画に沿って遂行した。 学外での大学院説明会の出席者は例年低迷しているが、二期入試には説明会出席者数	①　達成

		を大きく上回るエントリーがあったため、新たにスタートする公認心理師資格制度との関係を検討した。	
2017年度	年次計画内容		
	[1-1]　三回の入試の状況を把握し、検討を継続する。		
	[1-2]　受験生数(社会人を含む)、合格者数を把握し分析する。		

中期計画【計画２】（目標２に対応する計画）			達成度評価指標【指標２】
[2-1]　入学定員に対して超過・不足に至らないように配慮する。 [2-2]　社会人の入学を促進するために必要な授業料減額について検討する。			[2-1] ①入学定員充足率 ②収容定員充足率 [2-2] ①他研究科との授業料の対比
2016年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[2-1]　入試の状況と、超過･不足の状況を把握する。	計画に沿って遂行した。 各入試実施後に研究科委員会において状況報告がなされた。なお2016年度最終合格者は6名とこれまでで最少となったが、一期･二期入試とも、筆記試験、二次の面接試験を通じて研究科教員全員の評価に基づく適正な判定結果であった。	① 実施
	[2-2]　他研究科との授業料の格差の説明を求める。	計画に沿って遂行した。 学長が主催する全学運営会議において、研究科長及び人文学部長から他研究科との授業料格差についての指摘がなされた。	① 実施
2017年度	年次計画内容		
	[2-1]　入試の状況と、超過･不足の状況を把握する。		
	[2-2]　他研究科との授業料の格差の説明を求める。		

（12）大学院地域社会マネジメント研究科

中期計画【計画１】（目標１に対応する計画）			達成度評価指標【指標１】
[1-1]　もとめる学生像および、当該課程に入学するにあたり、修得しておくべき知識等の内容・水準を明示する。 [1-2]　障がいのある学生の受け入れ方針を示す。 [1-3]　学生の受け入れ方針に基づいて受け入れた学生の成長を、当該学生の学修成果に基づいて検証する。			[1-1,1-2 共通] ①入試要項、ホームページでの公開 [1-3] ①院生アンケート ②資格等取得状況
2016年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[1-1]　入試案内パンフレット、大学院の説明会等で求める学生像、習得しておくべき知識などを明示する。	入試案内パンフレットに教育目標、アドミッション・ポリシーなどの説明があり、習得すべき知識、どのような人材を育てるかの記述もある。大学院の説明会等でどのような人材を育てるかを説明した。ただ今後、入学志願者に対して、事前に書籍などを紹介し、習得すべき知識を明示する必要がある。	①入試案内、パンフレットにアドミッション・ポリシーを掲載している。ホームページでも公開している。
	[1-2]　障害のある学生の受け入れ方針を検討する。	社会連携センターがバリアフリー化されていないこともあり、受け入れ方針の作成にはいろいろな困難な面があり、今後の検討が必要である。	
	[1-3]　修士論文の内容の検証、院生アンケートなどで受け入れた学生の成長の度合いを検証する。	修士論文の作成において研究の内容などに進歩の跡が見られた。	①院生へのアンケートを行った。 ②資格取得者はいなかった。
2017年度	年次計画内容		
	[1-1]　入試案内パンフレット、大学院の説明会等で求める学生像、習得しておくべき知識などを明示するとともに、入学志願者に対して事前に書籍などを紹介する。		
	[1-2]　障害のある学生の受け入れ方針を検討する。		
	[1-3]　修士論文の内容の検証、院生アンケートなどで受け入れた学生の成長の度合いを検証する。		

中期計画【計画２】（目標２に対応する計画）			達成度評価指標【指標２】
[2-1]　収容定員に対する在籍学生比率の適切性を検証する。 [2-2]　定員の見直しやカリキュラムの見直しの検討、広報活動を通じて定員に対する在籍学生数の未充足に関する対応を行う。			[2-1,2-2 共通] ①入学定員充足率 ②収容定員充足率
2016年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[2-1]　これまでの入学者数の動向を検証した上で､カリキュラムの見直しと同時に定員の見直しを検討する。	今年度は大幅なカリキュラムの見直しをおこなわなかった。しかし、今後も20名の定員が充たされる可能性はほとんどないと考えられ、カリキュラムの見直しとともに定員の見直しの検討が必要となる。	①今年度の入学定員充足率25% ②今年度の収容定員充足率　20%
	[2-2]　大学ホームページの利用、入試案内用パンフレットの見直し､リーフレットの作成､パンフレットの配布先の拡大	大学ホームページの利用、パンフレットの見直し、リーフレットの作成、配布などを行い、今年度、志願者が 7	①今年度の入学定員充足率25% ②今年度の収容定員充足率　20%

	など広報活動の強化を通じて大学院の志願者数の増加に努める。このほか ・OB・OG、同窓会の活用 ・地方自治体や JC 等各種団体への PR ・税理士会等へ、法学研究科と合わせて PR を行う。 ・専修免許状の取得を目指す近郊の高校教員に向けて PR を行う。	名に増加した。今後も広報活動を強め、志願者の増加につなげたい。	
2017 年度	**年次計画内容**		
	[2-1]　これまでの入学者数の動向を検証し、定員の見直しを検討する。		
	[2-2] ①大学ホームページの利用、入試案内用パンフレットの見直し、パンフレットの配布先の拡大を通じて大学院の志願者数の増加に努める。このほか ・OB・OG、同窓会の活用 ・地方自治体や JC 等各種団体への PR ・税理士会等へ、法学研究科と合わせて PR を行う。 ②専修免許状の資格取得をカリキュラムに位置づけ続けるかどうか検討する。		